

第3章 運営モデル地域における実施成果と課題

スーパーバイズ事業において設定した重点事項とスーパーバイザー

1 各地域が取り組んだ重点事項(重点課題)

スーパーバイズ事業において、運営モデル地域は重点事項を設定した上で取組を行った。重点事項は次表に示す通りである。

図表 102 各地域が取り組んだ重点事項（重点課題）

地域	重点事項
札幌市	予防も含めた包括的な子ども・若者支援機関としての総合相談センターの設置及び同センターの認知度を上げるためのノウハウの構築
横浜市	総合相談センターに必要な人材を計画的に育成していくための仕組み作り（例えば、政令市の特徴を生かし、当該人材の採用～異動配置等）に関するノウハウの構築
豊橋市	臨床心理、カウンセリング等を、高校中退者の発見や支援のノウハウの構築の中で取り組む
上板町	町という自治体規模ならではの顔が見える関係を活かして、不登校、ひきこもり等、支援が必要な子ども・若者を早期に発見し、ユースアドバイザー養成講習会修了者等住民ぐるみで早期に支援していく仕組みの構築
北九州市	総合相談センターにおいていったん受けたケースをどのようにつなぎ、リファー先がない場合には、不足部分をどのように満たしていくのかといった総合相談窓口のリファー機能向上のためのノウハウの構築

2 スーパーバイザー

運営モデル地域が設定した重点事項に対して、外部から招聘したスーパーバイザーは以下の通りである。

図表 103 各地域におけるスーパーバイザー一覧

地域	スーパーバイザー	所属・専門性等
札幌市	宮本みち子	<ul style="list-style-type: none"> ・放送大学教授 ・内閣府「青少年の包括的自立方策検討委員会」座長 ・内閣府高等学校中途退学者の追跡調査企画分析委員会座長

地域	スーパーバイザー	所属・専門性等
		<p>等多数歴任</p>
横浜市	近藤直司	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科部長。 ・神奈川県立精神医療センター芹香病院、山梨県立精神保健福祉センター所長（山梨県中央児童相談所副所長を兼任）、山梨県都留児童相談所所長を経て、2012年より現職。
		<p>等多数歴任</p>
豊橋市	山本佳奈	<ul style="list-style-type: none"> ・たちかわ若者サポートステーション統括コーディネーター 臨床心理士 ・経歴：たちかわ若者サポートステーションでは業務全体のマネジメント、若者の職業的自立のための相談に従事している。またインターク、キャリア相談、障害等を抱える方の就職相談等を主に担当。他機関（医療機関・生活保護・司法・児童福祉）との連携を行なっている。
上板町	石田陽彦	<ul style="list-style-type: none"> ・関西大学臨床心理専門職大学院教授 ・奈良県 臨床心理士会 会長 ・奈良県 葛城市 「子ども・若者支援協議会」スーパーバイザー、同市臨床心理カウンセラー
		<p>等多数歴任</p>
北九州市	井村良英	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人「育て上げ」ネット ・若者の自立支援歴 12 年、キャリア・コンサルタント。首都圏、関西、九州の若者支援施設のスーパーバイザーをつとめ、全国で育成した若者支援者は 100 人以上。向き合ったケースは数千件に上る。